

「自然資本・生物多様性に対する地球観測衛星の貢献」

【主催】: 一般社団法人日本写真測量学会、一般社団法人日本リモートセンシング学会

(共催): 一般社団法人地理情報システム学会

● 開催日時: 2022 年 12 月 1 日(木)～12 月 25 日(日) オンデマンド配信 (測量CPD(2ポイント)対象)

上記の期間、G 空間 EXPO2022 公式 HP(講演・シンポジウム) <https://www.g-expo.jp/2022/symposium/> にて講演動画をご視聴いただけます。プログラムは下記のとおりです。ご視聴後は是非、アンケート回答へのご協力をお願いいたします。

本シンポジウムは測量 CPD(2ポイント)の対象となります。動画の全視聴 および アンケートの提出の両方をもって、ポイント申請ができます。アンケート用紙および CPD の申請方法は日本写真測量学会 HP(<http://www.jsprs.jp/>)をご覧ください。

【趣旨】

持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)や ESG 投資への社会的な関心が高まる中、近年、自然資本・生物多様性が注目を集めている。文部科学省の地球観測推進部会においても、「今後 10 年の我が国の地球観測の実施方針のフォローアップ報告書」(令和 2 年 8 月)において、SDGs の各評価指標やポスト SDGs に向けた目標設定に対する地球観測データの利活用の推進が示されている。

現在の SDGs の評価指標について、我が国では JAXA の衛星データに基づく解析情報が一部の評価指標に活用されつつあるが、地球観測データに基づく評価指標の設定は限定的であり、今後の SDGs の検証等において、観測データの一層の活用が期待されている。

このような背景を受け、「第 9 期地球観測推進部会」では、自然資本・生物多様性、気候サービス・気候レジリエンスなどが重点課題として設定され、検討が深められている。

そこで本シンポジウムでは、「自然資本・生物多様性に対する地球観測衛星の貢献」をテーマに、この分野における衛星リモートセンシングへの期待や利用事例に関する理解を深め、将来を展望する機会としたい。

【プログラム】

	講演タイトル	講演者	時間
0	開会あいさつ	赤松 幸生 一般社団法人日本写真測量学会 副会長	5分19秒
1	第9期地球観測推進部会中間とりまとめについて ～SDGs・GXに向けたデータバリューチェーンの視点から～	服部 正 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 次世代放射光施設整備開発センター	23分10秒
2	「自然資本配慮経営や産業創出に向けた基盤整備」に係る 環境省の取組、今後の展望	浜島 直子 環境省自然環境局 生物多様性主流化室	21分36秒
キーワード①			
3	TCFD、TNFD と CDP の取り組み	榎堀 都 CDP Worldwide-Japan アソシエイト・ディレクター	14分09秒
4	DIAS における生態系モニタリングと地球観測衛星の期待	安川 雅紀 東京大学 地球観測データ統融合連携研究機構	15分36秒
キーワード②			
5	生態系保全に関する日本リモートセンシング学会の取り組み ～サンゴ礁のリモートセンシングを例に～	山野 博哉 国立研究開発法人国立環境研究所	16分14秒
6	サステナブルファイナンスへの空間情報技術の活用の 可能性	大谷 智一 みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社	17分46秒
キーワード③			
7	持続可能な調達に向けた衛星システムによる原産地の リスク管理 ～民間企業の取り組み事例～	前田 佳子 国際航業株式会社 LBS センシング事業部	12分23秒

(合計)2時間7分2秒

※キーワード表示時間含む

以上